

令和7年度 第7回まちづくりミーティング

日時：令和8年2月18日（木）16：30～17：30

場所：福知山公立大学 メディアセンター1階

団体：GrowSpiral

○主な話し合いの内容

市長： 学生起業をされていること、非常に素晴らしい。起業が目標になるのではなく、事業の中身を大切に持続可能な取り組みをしていくことが、大切であると考えている。起業についても社会的責任として、事業とは関係のない奉仕活動にも取り組んでこられていたところから、事業活動を通じて社会課題を解決（CSR→CSV）へ転換されつつある状態である。

【意見交換】

団体：（活動報告）

NEXT 産業プログラムの第1期生として、この取り組みをはじめ、現在は学部を越えて18名の学生が所属をしている。

先ほどのあいさつでも市長がおっしゃったCSVの観点から取り組んでいる。

取り組みの内容は「オリーブフィナンシェ」の開発や販売。オリーブオイルなどを抽出した後には搾りかすは、栄養価は高いものの今まで利用されずに廃棄されていた。同時にB型就労所の平均賃金の低さを解決するために、あまづキッチンの皆さんと一緒に開発してきた。結果、オリーブを活かしたフィナンシェを商品化し、1個売れるごとに就労所で働いている方々へのボーナスとして30円を積み立てる仕組みを作ることができた。

さらに最近では、クラウドファンディングにも取り組み、資金調達を行ったが、この内訳をみると北近畿に次いで関東地方の方からの寄付が多かったため、共感人口の増加を目指していきたい。

市長： B型就労者への支援への共感と商品がおいしくて売れるとはべつで考える必要もあると思い、大変難しい点であると思う。障害者の方を支援したい気持ちで買物される方も多くいらっしゃると思う。

団体： その通りで、想いだけで作るのではなくNEXTの中でも学んできたフレームワークを意識してここまで進んできた。人を助ける手段がビジネスであると考えている。

市長 起業するということは、会社として事業を先に引き継いでいくことが大切であり、その中ではやっぱり収益も重要だと考える。

団体： 持続可能な会社も大事だし、学生にとってはここでの経験も非常に価値として今後の人生に重要になってくる。

市長： ざっくりではあるが、事業がソーシャルビジネス的なものか、CSV も入れながら産業的なものかに分けるとすると、ぜひ産業的に持続可能な会社をめざしてほかってほしいと考えている。

団体： 福知山の中でどのような学生起業が立ち上がれば、うれしいと感じるか？

市長： ユニコーン企業、とまでは言わないがそのような企業が市内から出てこればうれしいと感じる。さらにその産まれた企業から発展してほかの企業集まってくるような展開が出てくることも期待したいと思っている。

団体： 市長の好きな食べ物は？

市長： 揚げ物全般。日に2食食べることもあるぐらい。

団体： どのようなフレーバーのフィナンシェがあれば、いいと思うか。

市長： これ、というフレーバーはすぐには思いつかないが、ほかのお菓子で「フィアンティーヌ」のように食感を楽しめるお菓子があれば、買いたくなると思う。

様々な意見を言ってしまったこともあるが、皆さんには大変期待をしている。自分も今になって「若い時にもっとやっておけばよかった。」と思うことが多くある。ぜひ「どうしようかな」と迷ったらぜひやってみてほしいと思う。

